

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
吉川 豊

印刷部数10万8300部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

物価と資材高騰 苦しむ仲間の声

物価と建設資材の高騰が、仲間を苦しめています。訪問によるアンケートなどで、仕事、生活の実態と要望を集約し、国、自治体に届ける行動に取り組みます。

(関連記事4面)

秋の拡大月間 前半戦 元気よくスタートダッシュ 元へ仲間の元へ

江東・大島 若手3人、揃い踏み 対話を待ってる仲間いる

仲間を増やす秋の拡大月間がはじまり3週間が経過しました。行動制限が無くなるなか、各支部で、仲間と集い、仲間を訪問する取り組みが進められています。



左より高梨雄一分会長、支部執行委員の石井広志さん、木塚優樹さん、富樫康弘委員長

9月9日の夜、江東支部大島分会のセンタールに集まったのは、高梨雄一分会長をはじめ5人。打合せもそこそこ、フットワーク軽く、すぐに訪問行動に繰り出しました。

支部オリジナルの訪問グッズのエコバックを手に歩いて5軒を訪問、すべての訪問先と対話することができました。建築資材を運送する事業所では、会長の会長に従業員分のグッズを手渡し、新加入がある場合はぜひ連絡ほしい旨、直接伝えました。その後、センタールに戻りました。

府中国立 朝霧高原で出陣式 各分会から75枚の加入書

【府中国立・書記・前田寛史通信員】9月4日、府中国立支部「2022秋の仲間づくり月間出陣式」が開催され、組合員と家族162人が集まりました。支部主催の出陣式は実に3年ぶりの開催、各分会ごとに貸切の大型バスで、それぞれの地元から会場となった朝霧高原まわりの牧場に

向かうという初の試みです。バス車中では分会役員が仲間づくり推進ニュースや支部の取り組み、分会レクや若手イベントなどを紹介し、「秋は毎週バーベキューみんなでいっしょに楽しもう！」などと盛り上がり、交流が進みました。

執行委員長は「コロナ禍の下でも十分に感染対策を実施して、待ったなしの仲間からの相談に応え、組合の諸要求実現を皆さんとチカラを合わせ進めてきました。この秋は分会のレクリエーション、各会・各分野の企画も目白押し。仕事や暮らしに役立つ学習会も開催します。組織拡大だけ

でなく、仲間の声を運動に繋げる美りの秋にしよう」と決意が語られました。

各分会から持ち

寄られた組合加入申込書は75枚。新たな仲間ともチカラを合わせて、支部一丸で仲間の輪を広げ、絆を強くする秋の仲間づくり月間に、決意を新たにすると



「久しぶりだね、かんぱーい」

「久しぶりだね、かんぱーい」

「久しぶりだね、かんぱーい」



目黒桜分会の勝間田康之さん(左)が4枚の加入書を君塚広一常任に

目黒 全分会の目標達成に向け 秋の拡大「出発シンコー」

1に戻り、その日発行の拡大ニュースを分会長が読み上げて共有。「コロナ禍だからこそ、対話、情報待っている仲間がいる」との方針をあらためて確認しました。

訪問出発には間に合わなかったものの、若手執行委員の石井広志さん、木塚優樹さんがセンタールに駆け付けたところに、富樫康弘委員長と実川英治書記長が、丁度、分会を激励に訪れました。大島分会が誇る若手執行委員3人がそ

東京土建
内装・リフォーム工事、解体工事をされる方は 必須！
石綿関連の資格取得は
東京土建で
お問い合わせは
所属の各支部へ

【英国のエリザベス女王が亡くなった。9月19日にロンドンのウェストミンスター寺院で国葬が実施される。1952年に25歳の若さで即位してから70年7月、96歳だった。今月6日にトラス首相を任命したのが最後の公務になったという。在位中は開かれた王室を目指し、同国の人気キックスター「パディントン」や「ジェームス・ボンド」との共演も話題となった。

■日本の国葬は、27日に日本武道館で予定されている。東京の自治体においては、足立区長が「区の公共施設で半旗を掲揚する」とする一方で、世田谷区長は「なぜ国葬という選択をしたのか」と疑問を呈し、杉並区の岸本区長は「一国民として(現状を)危惧している」と区内の国葬反対デモに参加した。今、あらゆる世論調査で反対が賛成を上回っている。本場にそれに値する人物かどうかを、きちんと議論すべきではないか。

■東京土建は、9月に「安倍元首相「国葬」に対する声明」を出し、法的根拠がなく憲法の思想・良心の自由に対する国葬の強行に反対し、撤回を求めた。特に、旧統一教会との癒着ぶりは深刻だ。強行されれば「国葬されるような偉大な人物が我々を支援し、敬意を表した」と宣伝され、旧統一教会に更なるお墨付を与えることにもなるだろう。